

自己点検・評価報告書

令和 6 年度

学校法人野又学園

函館歯科衛生士専門学校

令和6年度 自己点検・評価報告書 目次

I	教育理念・目標	
	1. 教育理念・方針	1
	2. 教育目標・人材育成像	1
	3. 教育の特色	1
II	学校運営	
	1. 経営目標	2
	2. 管理運営	3
III	教育活動	
	1. 教育課程の編成及び実施	5
	2. 資格試験	7
	3. 教職員	8
	4. 在学生の状況	10
IV	学修成果・教育成果	
	1. 就職状況	11
	2. 資格の取得状況	11
V	学生支援	
	1. 在学生への支援	12
	2. 卒業生への支援	14
	3. 中学校・高等学校との連携	15
VI	教育環境	
	1. 施設・設備	16
	2. 実習施設	17
	3. 防災計画	18
VII	学生の受入れ募集	
	1. 入学試験状況	18
	2. 広報・学生募集活動	19
	3. 学生納付金	19
VIII	教育の内部質保証システム	
	1. 各種法令の遵守	20
	2. 個人情報の保護	20
	3. 自己評価の実施	21
IX	財務	
	1. 予算・収支計画	21
	2. 会計処理・監査	21
	3. 財務情報の公開	21
X	社会貢献・地域貢献	
	1. 社会貢献・地域貢献	22
	2. 職業教育・職業体験	22
XI	学校評価	
	1. 学校満足度評価	23

I 教育理念・目標

【評価の観点】

- ・学校の理念・目標・育成人材像は定められているか
- ・教育目標・育成人材像は、歯科業界のニーズに向けて方向づけられているか
- ・学校における職業教育の特色は明確になっているか
- ・学生・保証人(保護者)に対して教育理念等を明文化し周知しているか

1. 教育理念・方針

3年間の学校生活の中で、建学の精神の浸透を図り、豊かな人間性を基にした専門職に必要な知識・技術を修得させるとともに、自らの目標に向かい、学習意欲や態度を培うことができる専門的職業人の育成を目指している。

これらの実現のために、歯科保健に関わる問題に関し、専門的知識と技術を通して幅広い対象者を援助できる能力を修得する。また、業務の多様化・高度化に対応できる専門性や創造性に優れた歯科衛生士を育成することを教育方針としている。

2. 教育目標・人材育成像

- (1) 基本的な医学知識を身に付け、高齢社会に対応できる能力を養う
- (2) 学問的裏づけによる問題解決能力と、それを応用できる創造性を養う
- (3) 臨地臨床に必要な総合力の向上を目指し、即戦力となる人材を育成する
- (4) コミュニケーションスキルや、ホスピタリティマナーを身に付け、豊かな人間性と社会性を育む
- (5) 歯科医療のプロフェッショナルとして、生涯学ぶ努力を怠らない歯科衛生士

3. 教育の特色

現在、先進的歯科医療と高齢化に伴う高齢者歯科医療の二極化が進行しており、歯科衛生士には幅広い知識やスキルが求められるようになった。さらに人材不足も相まって、養成校には高い実践力と即戦力の育成が期待されている。

本校教育は、臨床および現場において即戦力となる人材育成を目標としている。本格的に始まる臨地臨床実習のスタート時には、一定のレベルに到達していることを確認するため、OSCE（客観的臨床能力試験）に全員が合格することを目標としている。また、臨地臨床実習では、歯科診療室での一般診療、周術期・回復期の病院実習のほか、高齢者施設での実習、口腔保健センターの障がい者実習と、幅広い歯科衛生士業務を学び実践力の向上に努めている。

《現状と課題》

年度末実施の学校満足度調査では、全項目を総合すると、満足・やや満足の『満足群』は、1年 97.5%、2年 91.0%、3年 98.8%、平均では 95.7% と、昨年度を大きく上回ることが

できた。（詳細は P23 に記載）一昨年度に課題となった事項について、これまで様々な対策を施してきたので、この結果は学校にとって自信となり、素直に嬉しく思う。今後も学校として不十分な点に真摯に向き合い、学生にとって学校生活が楽しく充実した毎日が送れるようよう努力していく。

○ 検証資料

学園訓、事業計画、学則、学生便覧、シラバス、学校満足度調査、授業評価

Ⅱ 学校運営

【評価の観点】

- ・教育方針や教育目的に沿った運営方針が策定されているか
- ・運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか
- ・運営会議（教職員会議・教務会議など）が定期的開催されているか
- ・教職員それぞれの職務分掌が明文化されているか

1. 経営目標

（1）中期経営計画（令和5年度～令和7年度）

本校では、①退学者を減少させる、②学生募集の見直しの2点に絞って取り組んだ。

- ① 時間割に敢えて空き時間を設定し、学生は相互学習や、各自の課題に取り組むなど自由に活用できる時間とし、担任は個人面談の機会とすることで、学習面と人間関係等での早期問題解決につなげたいと考えている。

また、学級コミュニケーションは、担任だけではなくゼミ形式を取り入れることで、クラス内の人間関係の固定化を防ぎ、良好な人間関係の構築に努める。

- ② 学生募集では社会人の獲得に関し、専門実践教育訓練給付金制度と失業手当との関連などの周知のため、学校HPに専用ページを追加したほか、リーフレットを多方面に配布し多くの設置場所を設けた。

（2）事業計画

各年の年度末には次年度の学校運営について、『所属長方針』に従って事業計画、予算計画を策定している。

令和6年度の事業計画は、①カリキュラム編成、②学生募集、③退学者対策の3点であった。学生募集と退学者対策は、中期経営計画にある課題について改善しながら単年度計画として取り組むものである。特に退学者対策は成果があった前年度の施策を継続実施している。

学生募集に関しては、高校生とのファーストコンタクトから受験までを途切れることなく繋がる仕組みを取り入れたことで、次年度入学生数に結果として表れたのではないかと考えている。

《現状と課題》

退学者対策は空き時間活用やゼミの実施によって効果を実感している。何より学生からも好評であったとともに、入学担任の精神的負担も軽減され教員の自信にも繋がっている。

学生募集では、放課後送迎付き見学会が予想以上に好評で、前年度以上の参加者がありそこからオープンキャンパス参加者の大幅増につながったとみており、学生募集活動の核になる施策となった。社会人入学生に関しては、様々な取組みによって問合せや来校者は増加しているものの、受験までに至るケースは少ない。次年度は2名が入学するが、目標の3名まではあと一歩である。

2. 管理運営

(1) 就業規則

就業規則は、『学校法人野又学園就業規則管理規程』の各校就業規則作成基準をもとに作成・運用しており、学園ネットワーク上でいつでも閲覧、プリントが可能である。また、改定の際には速やかに周知すると共に会議開催時には教職員に重ねて情報共有に努めている。

(2) 人事労務管理

教職員の勤務状況等はPCのタイムカード機能、出張、休暇届などはワークフローにより管理している。令和6年度は行事やオープンキャンパス等で5日間程度の休日出勤となったが、学生募集業務は担当制にして出勤人数を削減するなどしており、一時期よりも日数は削減できた。また出勤分は振替休日に対応している。

年次有給休暇は、最低10日間の消化を目標とし全員が達成できたが、付与日数を消化できた者はいなかった。

(3) コンプライアンス

- ① 歯科衛生士学校養成所指定規則に従い、承認申請事項、報告事項共に遵守しており、令和6年度は学則変更等の承認申請をおこなった。
- ② 本校は、職業実践専門課程、専門実践教育訓練指定講座、修学支援新制度の認定校であることから、各法令・規定を遵守しており、特に情報の公開は年度の早いうちにホームページに掲載するよう努力している。
- ③ 専門実践教育訓練指定講座に関しては、指定要件が厳しく、定員充足率や卒業者数と国家試験合格率、就職率など十分な注意が必要になっている。
令和7年度から3年間の再指定申請を行い、2月には再び指定講座となった。

(4) 情報公開・情報システム

- ① 例年、5月の理事会終了後に学校ホームページの情報を更新している。特に修学支援制度や職業実践専門課程の要件にもあるため速やかな公開が必須だが、自己

点検に係る学校関係者評価については、委員会開催後に遅れて更新する。

- ② 令和6年度の SNS での情報発信は、ホームページ 35 回、Instagram 52 回 LINE 11 回行った。
- ③ 学園ネットワークにより、校内の業務管理、業務の効率化の他、学園関連校との情報の共有化も図られている。
- ④ 学校パンフレットは、3 年間使用できる仕様にしており、毎年更新する情報は別冊にして前年度の実績情報を掲載している。次年度はパンフを更新するため、現行を見直してより見やすさに拘った。

(5) 運営協議会

開催日：令和6年12月6日(金)15:30

学校管理運営上の課題や重要事項の解決策等について協議しており、メンバーは法人から理事長、事務局長が、学校からは校長、教務主任ほか専任教員が委員として出席している。

令和6年度は、主に学生募集に係る広報費について、大手企業との契約を見送ることで、SNS を外部委託することについて協議を行った。

(6) 運営委員会

開催日：令和7年3月24日(月)19:00 於：函館歯科医師会館

函館歯科医師会と野又学園の法人間で、学校運営に関して広く協議・連携が行われている。メンバーは函館歯科医師会長、副会長、専務理事の三役と学校担当理事、事務局長である。野又学園からは理事長、校長、教務主任が出席している。

令和6年度は例年の報告事項と、入学生の減少から歯科業界としての学生募集活動について、学校からの提案・協力依頼した件の進捗と、函館歯科医師会の年間イベントへの参加について次年度計画を共有した。

《現状と課題》

人事では、事務職員が8月中旬から1年間の産・育休暇に入っており、代替の臨時職員1名が加わって臨時職員の2名体制となったため、教員にも資料作成等の業務を分担しながらカバーしている。

前年度の運営委員会にて本校から協力依頼した件では、卒後の奨学金返済支援を申し出てくださる医院があり、在校生の地元就職希望と高校生へのアピールにもなることから、両方に活用していきたいと考えている。

○ 検証資料

就業規則、就業規則管理規程、個人情報管理規程、公益通報者保護規程
変更承認申請書、5条報告書、
教職員出勤簿、休暇取扱い要領、運営委員会規程、運営協議会規程

Ⅲ 教育活動

【評価の観点】

- ・カリキュラム編成に関して、企業側との連携・協議する組織があり機能しているか
- ・適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか
- ・学業成績評価・単位認定に関して、基準が明確であり事前に学生に示されているか
- ・資格取得等に関する指導体制はあるか

1. 教育課程の編成及び実施

(1) 教務委員会開催

① 令和6年5月14日(火)19:00 於：函館歯科衛生士専門学校

- ・前年度卒業生の国試・就職に関する報告と新入生の情報
- ・カリキュラム改編について（9月申請、R7年4月入学生から実施）
担当講師・時数の確認等
- ・就職支援について
就職説明会の開催計画（10月6日10:00～12:00）

② 令和7年1月30日(木)19:00 於：函館歯科衛生士専門学校

- ・国試対策状況・就職状況の報告
- ・新カリキュラムについて
解剖生理学担当医師の退任予定により、歯科医師会員に依頼したい件

(2) 教育課程の編成

- ① 平成30年度に改編したカリキュラムだが、学校内での授業・演習時間を増やし教育の充実を図るとともに、ゆとりある時間割にて学習効率を高める目的で令和7年度入学生から新カリキュラムを適応させることにした。
- ② 教務委員会では教育課程に関わる事項をはじめ、授業、実習、就職等について幅広く協議し連携を図っている。
令和6年度はカリキュラム改編の事項を中心に、就職、奨学金返済支援や国家試験等幅広く協議した。

《課題》

令和7年度入学生のカリキュラム改正について令和4年度から協議を進めてきたが、理事会を経てようやく申請まで運び、承認を得られた。今後、カリキュラム完成年度まで順調に展開していくよう注意深くみていく。特に臨地臨床実習の時間削減が即戦力育成を目標とする本校にとって影響がないか、また校内学習・演習時間の増加は国家試験の受験にあたってプラスになったかを注視していく必要がある。

(2) 教育指導方法

- ① 本校の授業評価制度は、各教科担当が時間内に適宜実施する評価と、前・後期終了時に学校が実施する評価とがある。さらに年度末に実施する学校満足度調査にも講義・演習全般の評価項目があるなど、授業評価を重要視している。
特に学期末に学校が実施する授業評価では、学生にとって分かりやすい授業の特徴をまとめ、当該学期を担当した教員・講師に配布している。
歯科ではP C使用、電子黒板により画像・映像等視聴覚を活用することでイメージしやすく分かりやすいが、スライド枚数が多くなり進行が早くなりがちのため、その点を注意喚起している。
- ② 専任教員には授業公開を義務付けており、相互に授業参観し評価することで適正な教授方法を共有し学校全体の教育力向上に努めている。令和6年度は一人1回の講義について公開授業とし、終了後は相互評価を行った。分かりやすい授業の特徴を捉えることで、専任教員全体の教授力向上に努めている。

《課題》

学期末に学校が実施する授業評価で、学生から『非常勤講師の先生には教科書中心の授業をしてほしい』との要望があった。専任教員が試行錯誤のうえ教科書に直接書き込ませるような授業であることが影響したと考えられる。しかし実際に教科書をほとんど使用せず、ご本人が作成くださったプリントを使用される教科もある。また教科書とプリントの併用で、大量のスライドをプリントしている教科もあり、文字の見にくさも学生から不満事項に挙がっていた。

本校としては国家試験に向けて教科書を理解することが重要であり、プリント配布によって理解がより深まるのであれば学生にとって有益なものだと考える。

学生からの要望は『学生の意見』として講師控室に掲示するとともに、当該講師の先生にお願いしていかなければならない。またプリントは学生のスマホに電子ファイルで配信するなど工夫することで学生が学びやすくなるよう努めていく。

(3) 教育課程の実施

- ① 令和6年度は各学年ともに計画通りに教育課程を実施できた。臨地臨床実習は他の教科と異なり100%出席が必要であるが、ほとんどは期間内で終了し、欠席者の補習も夏季・冬季休業時にわずか数日であった。
本校学生は、出席日数不足で試験の受験資格を失う者もなく、日常の健康管理、体調管理にたいし真面目で堅実だと実感している。
- ② 校外実習は函館歯科医師会をはじめ、地域歯科医療関係施設や高齢者施設のご協力のもと法令時間数を確保している。令和6年度は回復期病棟のうち1病院の実習が不可となったが、他病院に受入れ人数を拡大していただき、事なきを得た。

(4) 成績・評価

- ① シラバスには担当教員の評価について記載があり、オムニバス形式の教科では講師ご

との点数配分まで正確に記載して学生に事前に提示・説明している。また実技試験で評価する場合は、評価の観点を事前に提示しており、採点は明確で客観的かつ公平に行っている。

- ② 本試験終了後、再試験後に成績会議を開催しており、公正に単位認定し進級・卒業判定が行われている。
- ③ 学外実習は、実習指導者による評価制を取入れており、実習終了後には学生にフィードバックして次クールの課題として専任教員が指導している。なお、学外実習の成績は2年次がOSCE30%、臨床指導者評価70%の合計点としており、3年次は臨床指導者評価100%としている。令和6年度も再実習となった学生はいなかった。
- ④ 令和6年度から学修評価は、秀(90点以上)、優(80～89点)、良(70～79点)、可(60～69点)、及び不可(60点未満)の5段階とし可以上を合格としている。

《課題》

前年度に課題となった追試験について、教科担当教員が作問する際に2種作成することとして周知を図り協力いただいたが、令和6年度に追試験の対象となった教科は僅かであったため、再試験までの期間を確保できた。今後もこの方法を継続していく。

本校では平均点が70点位の難易度で試験の作問を依頼しているが、その年度によってクラスの学力が異なることもありある程度は許容範囲としているが、なかには90点台になる試験もあり、講師個別に改善をお願いしてきた。特に国家試験の出題科目では、難易度を必要以上に下げないように注視していく。

2. 資格試験

(1) 歯科衛生士国家試験

年 度	本校合格率（人数）	全国合格率
R 6	93.3 % (14/15)	91.0 %
R 5	96.8 % (30/31)	92.4 %
R 4	94.6 % (35/37)	93.0 %
R 3	100 % (32/32)	95.6 %
R 2	100 % (31/31)	93.0 %
R 元	97.1 % (34/35)	94.3 %

国家試験対策は総合講義(120時間,4単位)として各教科担当教員・講師による対策講義を行うほか、模擬試験は合計で10回実施し、その都度会議で状況把握に努めている。また成績低迷学生には、個別に担当制で学習指導にあたっている。

《課題》

3年連続して1名の不合格者を出してしまった。

令和6年度は、早期に学習を開始させることと、模擬試験の点数が上がりやすくするための『仕組みの構築』を試行した。1つは国試対策授業の時間割を、出題数の多い専任教員の教科をスタート時に集中して組込み、年内に5割得点することを目標とした。これには成果が認められ、次年度も継続することにしたが、もう1つの就職活動開始に点数要件を入れたことは思うような成果がなかった。求人は多くあり学生も焦る必要はなく、次年度の継続は検討が必要だと感じる。

いずれにしても、3年連続で合格率100%にならないことは、学生募集にも影響することであるため、次年度こそはと新たな決意である。

(2) 検定・認定試験

年 度	歯科医療事務検定3級	
	合格率	全国合格率
R 6	100 %	98.1 %
R 5	100 %	95.6 %
R 4	100 %	93.3 %
R 3	100 %	81.9 %
R 2	96.9 %	73.2 %
R 元	100 %	79.5 %

3年次に歯科医療事務の授業を行い、歯科医療事務検定3級の受験へと繋げており、令和6年度は100%の合格率だった。現在は難易度を下げた検定試験に変更したため合格しやすくなっているが、学生に必要な知識は十分に備わっていると考えている。

3. 教職員

(1) 教職員の状況

・専任教員 7名 非常勤講師 58名 合計 65名
 ・専任職員 1名 兼任(務)職員 1名

専任教員は指定基準資格を満たしており、教務主任含め6名が在籍している。全衛協の専任教員講習の受講によって6名中4名が認定資格を取得している。来年度にも1名が参加を予定しており、コロナ禍で遅延していたがようやく揃うことになる。

(2) 教員研修

令和6年度研修受講実績（専任教員6名分）

1. 全国歯科衛生士教育協議会	
専任教員研修会IV	渡邊
2. 北海道歯科衛生士養成機関連絡協議会	
『業務改善に向けた情報通信技術の活用について』帯広	渡邊、水口

〃 校内 WEB	永橋、三浦、千葉、渡邊
3. 日本歯科衛生士会	
災害歯科保健歯科衛生士育成研修 (WEB)	渡邊
4. 北海道歯科衛生士会	
令和6年度診療報酬改定～歯科衛生士が知っておくべきこと (WEB)	渡邊
エックス線写真からわかること～歯周病編 (わでまんど)	永橋、千葉、渡邊、水口
アクティブエイジングに寄与する高齢者歯科保健活動 (わでまんど)	永橋、三浦、千葉、渡邊、水口
5. 北海道歯科衛生士会 函館支部	
地域における健康教室のコツ	渡邊、永橋、三浦、渡邊、水口
健康はお口から お口と全身の健康	千葉
かむことの大切さ～カムカム弁当	渡邊、三浦、千葉、渡邊、水口
規格性のあるX線写真から読み取れること 歯周病アップデート	渡邊、千葉、
6. 歯科医師会 (函館・北海道)	
医療ケア児の理解と小児在宅歯科診療	渡邊、水口
函館臨床研究発表会	永橋、千葉、渡邊、水口
7. 関連職種団体	
口腔に関わる在宅支援サポート研修会 (在宅歯科医療連携室)	渡邊、永橋、三浦
函館市医療・介護連携『急変時対応研修会』 (在宅歯科医療連携室)	渡邊
8. 広報・学生募集関連	
大学志向が高まる中での専門学校における学生募集戦略とは (WEB)	永橋
現在の各地域による高校の状況や高校生の動向について (北専各連)	永橋、千葉、渡邊、三浦
9. その他	
第23回オンライン北海道口腔ケアセミナー	永橋
歯科衛生士業務の多様化における働き方～病院歯科でのDHの役割	永橋
ここで差がつくDHのステップアップセミナー (卒後研修会)	渡邊、永橋、三浦、千葉、渡邊
函館の魅力を活かしたまちづくり (函館私学振興協議会)	渡邊、永橋、千葉、水口
令和6年度能登半島地震口腔にみられた想定外の変化	渡邊
口から支えるエンドオブライフ (雪印ビーンズターク) WEB	三浦
重度心身障がい児入所施設での口腔ケア (雪印ビーンズターク)	三浦、渡邊
臼歯部歯根形態を極める！歯周治療成功の鍵は歯のカタチ (GC友の会)	三浦
患者さんに伝わる！OHIのロジカルシンキング (GC友の会)	三浦
令和6年度自殺予防後援会	永橋
ハラスメントのない職場へ～組織を強くする傾聴力とフィードバック	渡邊

《現状と課題》

上記の通り本校教員は多方面且つ多数の研修に参加し、忙しい中でも各自が自己研鑽に励んでおり、学校の教育力の向上につながっている。令和6年度は年間平均11回の受講

回数となったが、課題としては専門分野の研修は機会も多いが、教育に関する研修に触れることが少なく、今後はWEBも含めて機会を逃さないようにしたい。

4. 在学生の状況

(1) 学生数・定員充足率 (40名定員)

※5月1日現在

年 度	1 年	2 年	3 年	合 計 (充足率%)
R 6 年度	2 1 名	2 7 名	1 5 名	6 3 名 (52.2%)
R 5 年度	2 6 名	1 9 名	3 1 名	7 6 名 (63.3%)
R 4 年度	2 4 名	3 5 名	3 7 名	9 6 名 (80.0%)
R 3 年度	3 9 名	3 9 名	3 2 名	1 1 0 名 (91.7%)
R 2 年度	4 0 名	3 4 名	3 4 名	1 0 8 名 (90.0%)
R 元年度	3 4 名	3 7 名	3 6 名	1 0 7 名 (89.1%)

(2) 年間退学者数・率

年 度	学生数	1 年	2 年	3 年	合 計 (退学率%)
R 6 年度	6 3 名	2 名	2 名	0 名	4 名 (6.3%)
R 5 年度	7 6 名	1 名	3 名	0 名	4 名 (5.2%)
R 4 年度	9 6 名	6 名	3 名	0 名	9 名 (9.3%)
R 3 年度	1 1 0 名	4 名	2 名	0 名	6 名 (5.4%)
R 2 年度	1 0 8 名	1 名	4 名	1 名	6 名 (5.5%)
R 元年度	1 0 7 名	0 名	4 名	0 名	4 名 (3.7%)

(3) 修業年限内卒業率

卒業年度	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
入学年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
入学時学生数	39	34	42	39	40	38	34	40	39	24
卒業時学生数	35	25	38	33	33	31	30	37	31	14
修業年限内卒業率%	89.7	73.5	90.4	84.6	82.5	81.5	88.2	92.5	79.5	58.3

(4) 学校行事

- 4 月 入学式
新入生歓迎会
- 5 月 春のレクリエーション (1.2 年生合同)
- 6 月 スポーツ交流会 (1.2 年生合同)
- 10 月 遠足、学校祭
- 2 月 臨床実習決意式
- 3 月 歓送会、卒業式

《現状と課題》

令和6年度も新入生の退学者対策を実施してきたが、結果としては2名の退学者がでた。いずれも学校が関与しない理由での退学のため残念ではあるが致し方ない。以前のようなクラス内の不和、人間関係の問題について担任への相談等はなく、対策は順調だと捉えている。

学校行事に関しては改善すべき時期にある。3年生は前期いっぱいが臨地臨床実習であり、後期には国家試験の対策と就職活動があるなか、検定試験、課題研究の負担がかかる。そのうえ学校祭があるため、学事日程的にも困難なことから、学生数が減少していることも要因となっている。次年度からは学校祭を取りやめることにし、3年生の負担を軽減し国家試験に集中させたいと考えている。ただし、新カリキュラムでゆとりができ、学生数が回復した場合には再開できればと考えている。

○ 検証資料

学生便覧、シラバス、年間行事予定表、出席簿、休・退学生台帳、授業評価表
函館歯科衛生士専門学校教務委員会規程、臨地・臨床実習計画表、実習評価表
成績会議資料、模擬試験計画表、函館私学研究紀要

IV 学修成果・教育成果

【評価の観点】

- ・ 歯科衛生士国家試験は全員が合格できたか。または合格率は全国平均以上か。
- ・ 資格取得率の向上が図られているか
- ・ 就職指導・支援は十分であったか

1. 就職状況（卒業生15名）

年 度	卒業生数	函館市	渡島檜山	道内	道外	合 計	就職率%
R6年度	15名	8名	0名	3名	1名	12名	80.0
R5年度	31名	13名	4名	7名	6名	30名	96.7
R4年度	37名	21名	1名	2名	8名	33名	89.1
R3年度	32名	18名	2名	6名	3名	29名	90.6
R2年度	31名	13名	4名	3名	11名	31名	100.0
R元年度	35名	16名	5名	3名	8名	32名	91.4

2. 資格の取得状況

III 教育活動 2. 資格試験に記載

《現状と課題》

3年生15名のうち就職希望者12名は全員が就職することができた。国家試験不合格1名以外では、事情により夏頃の就職を希望している者、歯科衛生士を希望しない者があった。国家試験不合格の1名は次年度受験の予定であり、学校は引き続きサポートし、就職についても希望すれば学校で斡旋するつもりでいる。

○ 検証資料

求人一覧表、就職一覧表、就職説明会資料、就職支援対策のフローチャート

V 学生支援

【評価の観点】

- ・就職に関する支援体制が整備されているか
- ・学生相談に関する体制は整備されているか
- ・奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

1. 在学生への支援

(1) 就職・アルバイト

① 就職支援ガイダンスの実施（3年次5回）

- ・労働基準法について
- ・求人票の見方・確認ポイント
- ・求人票の掲示から採用までの流れ
- ・履歴書の書き方
- ・税金に関する講演（外部講師による）

② 函館歯科医師会対象の就職説明会は、1医院15分間のプレゼン形式として日曜日に開催しており、3年生全員参加としている。

令和6年度の参加医院は7件であり、うち4件に5名の就職が決まった。

③ 函館歯科医師会員の医院から学生アルバイトの募集があった際には、随時学生に開示し募集している。

令和6年度の受付件数15件・25名にたいし、10件・13名を斡旋したが、近年は学生数が減少し、お断りするケースが増えている。

(2) 学生相談

全学年ともに春季・秋季に担任との個人面談を実施し、問題の早期発見・対応に努めている。令和6年度も退学者対策の一つとして時間割に空き時間を設定したことで、教員・学生ともに時間的負担が解消され、有効活用ができていた。

(3) 経済的支援

① 奨学金の給付（令和6年度入学生）

種 類	A 特待 (20 万円)	B 特待 (10 万円)	特別推 (20 万円)	キャリア D (5 万円)	合 計
対象人数	1 名	4 名	2 名	1 名	8 名 (105 万円)

② 修学支援新制度利用者および日本学生支援機構の奨学金対象者 (R7. 3. 30)

制度 \ 学年		1 年(19 名)	2 年(25 名)	3 年(15 名)	小計	合計
修学支援新制度 (減免)	I	4 名	4 名	9 名	1 5 名	1 8 名
	II	0 名	0 名	2 名	6 名	
	III	1 名	1 名	1 名	3 名	
	IV	0 名	1 名	0 名	1 名	
学生支援機構（貸与型）		1 1 名	1 2 名	1 0 名	3 3 名	

③ 函館歯科医師会奨学金制度は、年度途中で対象者を選出し、クラスの 10% 程度の学生に 3 万円を給付している。

令和 6 年度は、3 学年合わせて 7 名に奨学金 (21 万円) が給付された。

《現状と課題》

歯科医院ではアルバイト時間が短いため収入が少なくなり、学生にとってそれほどのメリットはなかったが、時給もあがり令和 6 年度は増加傾向であった。歯科でのアルバイトは、机上と繋げて学ぶことができることと、歯科医院には学事優先を条件としているため、学校でもアルバイトをするのであれば歯科医院を推奨している。

(4) 健康管理

- ① 法令に従い健康診断、身体検査は 4 ～ 5 月に実施している。
- ② B 型肝炎感染予防対策として、1 年次に HBs 抗原抗体検査を行い、陰性ではワクチン接種により HBs 抗体を確認するとともに、はしか・ムンプス等 4 種の抗体検査を行ってから臨床実習に入るようにしている。
- ③ 新型コロナウイルスが 5 類に引き下げられた後も、感染対策は継続しており、校内の至る所に消毒剤を設置して手指消毒の励行や、教室内には Co2 センサーを設置し、換気するなど医療職種として常識的な対策を行っている。

(5) 保護者との連携

- ① 近年ではメンタル不調の学生が増加しており、保護者との連携機会も増加している。また、成績不振学生や国家試験に向けては、家庭での学習支援の重要性から、相互サポートへの理解を得られるよう心がけている。
- ② 体調不良により早退する場合には、担任から保護者に病状や状況などについて連絡してから帰宅させるようにしている。

《課題》

保護者との関係性に関しては、担任が小まめに連絡を入れることで、問題なく連携ができています。特に国試の模擬試験結果が振るわない学生には、直接保護者に連絡し状況を伝えなければ、最終的に学校不信になり兼ねないため配慮している。

奨学金に関しては学生対象の説明会を開催しており、授業料納入等についても、学生・保護者とも事務職員が丁寧に説明することで理解を得られている。

2. 卒業生への支援

(1) 卒後研修会開催

令和6年9月1日(日) 10:00~11:30 参加21名

高原美保先生 『有病者歯科治療に対する当院での取組み・病棟との連携』

花尻亜弓先生 『ここで差がつく！歯科衛生士のステップアップセミナー』

周知方法は学校HPへの掲載の他、函館歯科医師会の発送物に案内を同封、実習医院へ持参して歯科衛生士に直接渡すなどしている。また卒後2~3年の卒業生には、担任がLINEにて連絡しているが、卒後研修会を始めた当初より年々参加者が少なくなり、学校側は呼び込みに苦慮している状況にある。

(2) 就職支援

令和6年度の中途採用の求人受付は7件あったが、本校で斡旋できたのは0件であった。北海道歯科衛生士会函館支部との連携により、会員に一斉メールにて求人情報を発信しているが、以前までのように卒業生が学校に求職相談に来ることは少なく、求人サイトや口コミ、雑誌等の利用が主流になっているようだ。

(3) 学校教材の貸出し

歯科保健の指導媒体・器材等の貸出しは要望があるごとに随時行っており、卒業後の学びや勤務先での診療業務に対して協力しているが、令和6年度は貸出依頼がなかった。

図書に関しては、現在新しい図書や雑誌が充実してきており卒業生にも好評で、貸出も数件ある。

《課題》

卒後研修会は、函館市内では研修機会に恵まれないことから、学校が企画することで卒後の学びを支援してきた。しかし、コロナ禍以降はWEBでの受講が可能なため、参加者は専任教員が努力して集めている状況であり、現在は需要が低いことから次年度以降の実施について消極的である。

学生数が減少していることで、函館歯科医師会の新卒求人数に対応できていない状況だが、中途採用に関しても同様であり、歯科衛生士不足の問題は解決できていない。

3. 中学校・高等学校との連携

(1) 中学校

・次世代人材職業体験推進事業

月 日		学 校 名	人 数	時 間
1	5/17	上磯中学校	10 人	9:00～11:00 (2h)
2	7/18	今金中学校	5 人	10:00～12:00 (2h)
3	9/ 4	八雲中学校	4 人	13:30～16:30 (3h)
4	9/13	鹿部中学校	8 人	9:30～11:30 (2h)
5	10/10	巴中学校	4 人	9:00～12:00 (3h)
6	10/10	桔梗中学校	11 人	13:30～16:30 (3h)
7	10/24	本通中学校	12 人	9:00～12:00 (3h)
8	11/ 8	戸倉中学校	3 人	9:00～12:00 (3h)
合 計		8 校 (昨年度比+4 校)	57 人 (+22)	21 時間 (+9h)

(2) 高等学校

- ① 学園姉妹校である函館大学付属柏稜高等学校と連携し、キャリアデザインプログラムに講師を派遣するほか、職業体験として生徒の受け入れをしている。
- ② 高等学校の職業説明会への参加のほか、高等学校独自のガンダンスには依頼があれば必ず参加している。

《現状と課題》

次世代人材職業体験事業による中学校の来校は、昨年度比 2 倍になった。コロナ禍以前は年間 7 校程度だったので回復してきたとみている。しかし生徒数はコロナ以前には及ばず中学の生徒数減少が影響しているものと思われる。

本校としても中学生への職業 PR でもあるため、重要な機会だと認識している。

・久根別小学校 R6 年 10 月 15 日 (火) 3 年生対象

・亀田中学校 R6 年 11 月 18 日 (月) 1 年生対象

その他、上記の小・中学校に歯科保健指導のため訪問授業を実施した。これは、学生にとっても貴重な学びの機会だが、学校としては歯科衛生士の職業 PR の機会でもあり今後も継続実施していきたい。可能であれば他校にも展開したいと考えているが授業として訪問するのは時間的にも困難である。

○ 検証資料

就職希望調査、求人票一覧、就職支援のフローチャート、アルバイト募集一覧
 入学試験要項、函館歯科医師会奨学金支給規程実施要綱、入学試験判定資料
 職業説明会実施記録、口腔保健教育授業実施記録、卒後研修会開催記録

VI 教育環境

【評価の観点】

- ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- ・施設・設備の点検、補修・修繕等は適宜行っているか
- ・学外の実習施設等は学生に対し十分確保されているか
- ・災害時防災マニュアルに従って避難訓練を実施しているか

1. 施設・設備

(1) 普通教室

教室には電子黒板、スクリーンが設置されており、PCやタブレットでの授業が可能だが、令和4年度からWi-Fi環境が整い、授業中のスマホ検索や国試ネットアプリを活用して出題もできるようになった。また、授業のプリントを紙資料から電子ファイルでスマホに配信する計画も始まっており、良好な環境になっている。

(2) 実習教室

- ① 基礎実習室では診療台をU字に14台配置し、ロールプレイを行う際に、教員の巡視・指導の導線が良い。また、学生が自分たちで器材の消毒・滅菌を行いやすいように、前方に滅菌器や超音波洗浄機などの機材を揃えて配置している。またエアコンも整備しており、清潔・衛生環境に気を配っている。
- ② 実験室は必要器材の準備から後始末までを学生ができるように備品が整理・収納されており、症例別器具を手にとって確認できるようになっている。しかしマネキン実習室が整備されてからは使用頻度が減少している。
- ③ マネキン実習室には、歯科診療台の仕様を机にしたものが40台設置されている。ライトやシリンジ、切削エンジン等も備わり、『人』を対象とする演習の前に重要な基礎実習で使用しているが、カメラと机上モニターがあることからそれ以外の実写を要する授業においても効果的であり、多目的に使用している。南向きに配置された教室のため日差しが強く、マネキン等の劣化を防ぐため授業以外はカーテンを閉めている。
- ④ X線教室は、撮影室3室と暗室が2室あり、壁、ドア、ガラスに放射線防護装置が施されており、安全に授業ができる設備となっているほか、デジタル撮影装置も備わっている。
- ⑤ PC実習室はパソコン機42台を設置しており、情報処理・統計の授業のほか、口腔保健管理での患者データの入力・管理や、課題研究のデータ管理・分析とプレゼン用スライド作成、臨地臨床実習の時数計算など広く活用している。
函館看護専門学校との共用である。

(3) その他

- ① 標本室は学習室の機能を兼ねており、器材や模型が展示されているほか、自己学習用の机・いすも備わっており、学生は自由に使用できるようになっている。
- ② 面談室は1Fに3室あり、個別、または5人程度の収容面積がある。学生の個別面談に使用することが多いため2F教室と離れている環境は適している。
- ③ 医務室には、2床のベッド及び寝具が備えられ、一時的な休養に使用する。
- ④ 1Fラウンジでは、シダックスによる食堂運営がされており、学生、教職員が使用するほか、国家試験対策時には、担当学生への指導に使用している。
2FラウンジⅡにはカウンター席、ソファ席、テーブル席もあり、休憩や食事のほかにも個人学習やグループ学習、アクティブラーニングなど多目的に使用できる。
学校祭では模擬店や食事場所として活用している。
- ⑤ 新校舎にはエレベーター、多目的トイレを設置しており、学生や講師が車いすでも対応できる。

各実習教室の放課後使用状況(在校生数は5月1日現在)

各教室 年度	マネキン室	基礎実習室	実験室	P C実習室	合計(1人平均)
R 6 (63名)	6 5	2 2 2	9 4	5 6	4 3 7 (6.9回)
R 5 (73名)	1 3 0	1 1 0	2 9	1 1 5	3 8 4 (5.3回)
R 4 (96名)	1 7 8	2 0 5	1 5 2	3 0	5 6 5 (5.9回)
R 3 (110名)	2 2 3	1 4 8	1 8 4	4 1 5	9 7 0 (8.8回)
R 2 (108名)	2 9 5	9 6	2 3 0	1 0 5	7 2 6 (6.7回)

《現状と課題》

放課後の実習教室使用状況では、前年度よりも活用されていたことがわかる。令和6年度の2年生はよく放課後に残って学習・練習するクラスだったため、OSCE対策に熱心に取り組んだことがよくわかる。マネキン実習室の使用が減少しているのは実技試験に変更があったことと、模型ではなく人を対象にして訓練することで、より実践的になるため選択されているのではないかと考えられる。

放課後に実習教室を開放することで器材の扱いや故障等、問題が生じないか不安要素はあるものの、これまで大きなトラブルはなく利用されている。

2. 実習施設

令和6年度現在登録施設

	歯科医院	総合病院	病院	保健センター	施設	幼保園	計
R 6 年 度	1 0 0	5	7	1	1 3	1 3	1 3 9
増 減 件 数	—	—	—	—	—	—	—
備 考	変更なし	口腔外科	病棟	障がい者	高齢者		

令和6年度は、実習施設の追加申請を行ったため次年度には数件の医院が追加される。学生数が減少していることもあって、実習施設数は十分に確保されているが、平日休診と診療開始時間の繰下げがあり、週間時数を確保できない医院が増加してきたことで、学生配当に苦慮している。

3. 防災計画

・防災訓練実施日 令和6年6月19日（水）12：15～

函館看護専門学校と合同で訓練している。校舎に階段が3か所にあることで、2階からの歯科学生と3階からの看護学生がスムーズに避難できているが、毎年発生元が同じため、他の避難経路も準備しておく必要があるのではないか。

○ 検証資料

歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導要領、臨床実習施設の概況歯科衛生士養成所変更承認申請書、実習教室の使用状況一覧

VII 学生の受入れ募集

【評価の観点】

- ・学生募集活動は適正に行われているか
- ・学校説明会・進学相談会等による情報提供を行っているか
- ・学納金等は妥当なものとなっているか

1. 入学試験状況

年 度	志 願 者 数			受験者数	合格者数	入学者数
	特待生	推薦	一般 社会人			
R6年度	19名	2名	10名	31名	31名	29名
R5年度	13名	5名	4名	22名	22名	21名
R4年度	22名	2名	4名	28名	28名	27名
R3年度	16名	7名	3名	25名	25名	24名
R2年度	23名	12名	5名	40名	40名	39名
R元年度	28名	10名	5名	43名	40名	40名

《課題》

過去最低だった昨年度を上回ることができたが、30名には及ばなかった。

募集活動では、放課後送迎付き見学会からオープンキャンパスへ繋げるよう努力している。またオーキャンの内容も毎回異なり、リピーターには特典がある仕組みに変更した。社会人の入学者は2名に留まっており、目標の3名には届かないもののまだ可能性があるため次年度も注力していきたい。

2. 広報・学生募集活動

(1) 活動実績

活動内容	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
高校訪問	48 校・86 回	40 校・101 回	63 校・152 回	65 校・179 回	49 校・108 回
校内説明・ガイダンス	7 校・11 校	10 校・13 校	11 校・9 校	9 校・7 校	3 校・1 校
業者相談会（面談者数）	16（64 人）	8（35 人）	14（47 人）	20（111 人）	16（77 人）
オーキャン（参加者数）	5（114 人）	5（49 人）	6（65 人）	7（83 人）	5（73 人）
放課後送迎付き見学会	12 校（42 人）	10 校（36 人）	8 校（23 人）		

(2) SNS の活用（投稿回数）

	R 6	R 5	R 4	R 3
Instagram	52 回	34 回	40 回	70 回
LINE	11 回	20 回	14 回	3 回
学校ホームページ	35 回	35 回	18 回	31 回

学校ホームページでは職業実践専門課程の認定要件、修学支援新制度の機関要件の両方を満たすための情報公開と、その更新について確実にやっている。Instagram は投稿のみだが、LINE は双方向の情報交流に活用している。

《現状と課題》

令和6年度のオープンキャンパス参加者数が突出しているが、これはリピーター増加の影響が大きく、元は放課後送迎付き見学会の参加者数にある。興味の段階にある生徒にとってオーキャンよりも短時間の見学会(1時間)が参加しやすく、送迎もあればより手軽なのではないかと考えたが、成果があがってきており次年度も同様に継続していく。

苦戦している青森県内の募集だが、八戸から2名が入学することになった。次年度に繋がる問合せも数件あるため、諦めずに機会を作っていきたい。

SNS の活用は精一杯やってきたが教職員の負担も大きくなっているため、次年度から外部委託することにした。

3. 学生納付金

(1) 学校納付金

入学金	200,000 円
授業料	550,000 円（年間）
実験実習費	190,000 円（年間）

（２） 業者への納入金（R 6 年度）

	教科書	実習衣	実習器材	国家試験旅費
1 年	74,000 円	13,000 円	61,000 円	
2 年	60,000 円			
3 年	13,000 円			25,000 円

《現状と課題》

学費は久しく値上げしてこなかったが、物価や光熱費の高騰により、令和 7 年度入学生から値上げを決めた。値上げ額は年間 60,000 円、1 期分では 15,000 円、月額 5,000 円である。

実習衣、実習用器材に関しては毎年、相見積もりにて業者を採択している。

○ 検証資料

令和 6 年度入試広報報告、入学試験要項（授業料、実験実習費）諸費用内訳

VIII 教育の内部質保証システム

【評価の観点】

- ・ 法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか
- ・ 個人情報の保護に関する対策を実施しているか
- ・ 自己点検評価が実施され、問題点の改善に努めている

1. 各種法令の遵守

歯科衛生士学校養成所指定規則に従い、定期報告、申請、届出について必要な事項を掌握し適切に対応しており、法令遵守に努めている。

令和 6 年度はカリキュラム、実習施設、学費の変更申請をおこなった。また、専門実践教育訓練施設として、令和 7 年度～9 年度分の再指定申請も行った。

2. 個人情報の保護

『野又学園個人情報管理規程』、『学校法人野又学園個人情報保護方針』により、学校が保有する個人情報について、厳重に扱っている。令和 6 年度も、『個人情報の取扱いに関する同意書』を入学時に提出させている。

また、臨地臨床実習に際しても、病院、医院、施設にたいし、同様に同意書を提出している。

3. 自己評価の実施

年度末に教員全員による自己点検・自己評価を実施し、学校の実態を把握し、問題点を見つけ、早期に改善するよう努めている。また、結果については野又学園教育向上推進委員会に提出し、理事会の承認の後に学校関係者評価委員会の意見をつけてホームページにて公開している。

令和6年度は、3月25日(火)に専任教員6名と校長の計7名にて実施した。

《課題》

専門実践教育訓練施設の指定には、卒業率80%以上、国家試験合格率全国平均以上、就職率80%以上と厳しい要件が課せられている。特に国家試験合格率では、人数が減少すると1名の不合格でも平均を割ってしまうこともあるため、注意が必要である。社会人入学生を増やしたい本校としては絶対に外せない数字となっている。

○ 検証資料

個人情報管理規程、個人情報保護に関する同意書、学校評価委員会規程

Ⅸ 財務状況

【評価の観点】

- ・ 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか
- ・ 適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか
- ・ 財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか

1. 予算・収支計画

毎年度の事業計画とともに予算計画を策定している。令和6年度は学生数の減少から授業料収入の大幅な減額を想定した収支計画になっていた。せめて退学者を減少させることと、教職員は出来る限りの経費削減に努め、決算では支出額を削減できたものの、特定資産の取崩額は大きかった。

2. 会計処理・監査

法人の経理と養成施設(学校)の経理とが統合されており、会計帳簿、決算書類等、収支の状況を明らかにする書類等は、徐々にペーパーレス化されている。

なお、学校会計監査は、適正に実施され指摘事項はなかった。

3. 財務情報の公開

財務情報に関しては、毎年5月の理事会終了後にホームページにて公開している。財務情報も職業実践専門課程認定校の基本情報として公開資料のなかにある。

《現状と課題》

令和5年度から特定資産の取り崩しが続いている。次年度は学費を値上げするが、全体の定員充足率は60.8%と損益分岐には遠い。専任教員に1名の欠員がでるが補充せずに様子を見ることにする。

健全な学校経営には何よりも学生数の確保が重要であり、募集活動を優先課題として教職員全体で取り組んでいく。

○ 検証資料

公認会計士監査資料、予算編成会議資料、財務情報閲覧資料

X 社会貢献・地域貢献

【評価の観点】

- ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか
- ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか

1. 社会貢献・地域貢献

(1) 研修会・講演会等の講師となって地域の口腔保健の向上に寄与している。

- ・函館市介護予防教室事業『転倒骨折・認知機能低下予防教室』講演・演習
- ・函館看護専門学校1年生対象の口腔ケアの講義・演習

また、学生の授業を兼ねて、地域包括支援センターときとうとの連携による町内会で『健口教室』を3町会にて実施し好評だった。

(2) 学校祭において歯科医療関係団体と連携し、公衆衛生活動と口腔保健の意識向上に寄与しており、令和6年度も函館歯科医師会と北海道歯科衛生士会函館支部にご協力いただいた。

2. 職業教育・職業体験

V 学生支援 3. 中学校・高等学校との連携に記載

《現状と課題》

学校祭に関しては学生・学校の招待制にしており、令和6年度は213名の来場者だった。学生数は3年前と比較して57%まで減少しており、企画運営が困難になっている。本校の学校祭は函館歯科医師会、北海道歯科衛生士会函館支部と連携を図った企画であったが、今後は函館歯科医師会のイベント等に参加・協力する形で連携し歯科職種をアピールしていくつもりでいる。

○ 検証資料

野又学園施設貸出規程、講師派遣実績記録、令和6年度学校祭開催要領

XI 学校評価

1. 学校満足度調査結果（R7 年 3 月 7 日実施）

1 年生（19 名）満足群（満足・やや満足） 97.5% (％)

カテゴリー	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
教育課程	カリキュラムの内容	53	47	0	0
	講義（机上の授業）	58	37	5	0
	校内演習・実技	74	26	0	0
	臨地臨床実習（見学実習）	89	11	0	0
施設・設備	教室・教育設備・教材	79	16	5	0
	その他の施設・設備	74	21	5	0
支援体制	学習支援（学習計画）	53	32	10	5
	奨学金案内・手続き	68	32	0	0
	アルバイトの案内・面接まで	68	32	0	0
対応	専任教員	68	32	0	0
	事務職員	74	26	0	0
	健康管理（感染予防対策等）	79	21	0	0

2 年生（25 名）満足群（満足・やや満足） 91.0% (％)

カテゴリー	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
教育課程	カリキュラムの内容	24	60	12	4
	講義（机上の授業）	12	76	8	4
	校内演習・実技	52	36	8	4
	臨地臨床実習	44	40	16	0
施設・設備	教室・教育設備・教材	56	44	0	0
	その他の施設・設備	36	40	24	0
支援体制	学習支援（学習計画）	40	48	8	4
	奨学金案内・手続き	52	48	0	0
	アルバイトの案内・面接まで	48	52	0	0
対応	専任教員	28	52	20	0
	事務職員	56	44	0	0
	健康管理（感染予防対策等）	52	48	0	0

3年生（15名）満足群（満足・やや満足） 98.8% (％)

カテゴリー	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
教育課程	カリキュラムの内容	80	13	7	0
	講義（机上の授業）	73	27	0	0
	校内演習・実技	80	20	0	0
	臨地臨床実習（見学実習）	53	40	7	0
施設・設備	教室・教育設備・教材	87	13	0	0
	その他の施設・設備	87	13	0	0
支援体制	学習支援（学習計画等）	67	33	0	0
	就職支援	87	13	0	0
	奨学金案内・手続き	100	0	0	0
対応	専任教員	80	20	0	0
	事務職員	80	20	0	0
	健康管理（感染予防対策等）	80	20	0	0

《現状と課題》

評価はGoogle フォームを使用し、各学年ともに3月終業日に実施した。

満足群（満足、やや満足）は、1年97.5%、2年91.0%、3年98.8%であり、大変高い評価が得られた。令和6年度も様々な施策を実行してきたので、評価は学校として自信となったほか募集にも活かせる数値を嬉しく思う。

調査の結果は次年度の始業式に報告し、不満足意見についての回答や改善策をフィードバックしている。

不満足意見には、『授業が分かりにくい教科がある』や『教科書で教えてほしい』など授業に関するもののほか、『ロッカールームが寒すぎる』と言った設備の故障についてが多かったが、早速改善するよう対策している。

来年度も、教職員が一丸となり学生に寄り添いながら、各々の自己実現のためにサポートしていく所存です。